第 2014-05 号

恵みと真理のニュース

2014 年 2 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　神様は万事が益となるように共に働いてくださいました。

祖父は青年の頃神様の恵みで病気が治され神様を信じるようになって父も長老の職分を受け教会を仕えました。しかし、生活が平安ではありませんでした。急に父の事業の失敗で家運が傾きました。父はある日人生が終わったと言い断食祈りする所に入りました。その時から私と家族は様々な苦難の時期を過ごしました。
私の母は青年の頃から信仰が良かったです。しかし外祖父は神様を知らなくて信じなかったので母が教会に行けないようにわざと農事をさせたそうです。すると、母は土曜日の夜一人で残っている仕事を前もって終わらせて次の日には必ず主日を守りました。そのような母でしたので子供たちは必ず信じる家族の子供と結婚させようと思いたくさん祈りました。母の信仰を受け継いで兄は牧師になりました。母は兄のため毎日教会に行って夜通し祈りました。どんな状況でも変わらない姿で熱心に信仰生活をしました。しかし、ある日から急に母が私の結婚を急ぎました。後で知ったことですが重い病気にかかったことを汲み取り私を結婚させようとしたのです。
私は 40 日朝祈りを決めてささげた末神様の恵みと摂理で神様を良く捧げる旦那に出会い結婚しました。私が結婚してまもなく母は乳癌で 5 年間闘病で神様に召され天国に行きました。ありがたく旦那は闘病する母の息子のような存在でした。一度も眉をしかめることなくいつも明るい姿で真に病気に患っている母に大きい力になりました。そんな旦那を見ると私も神様に感謝し大変な時期をよく乗越えました。
旦那の事業が IMF で不渡りで突然やっていた事業を辞めて姉の事業場に移すようになって私達の夫婦はむしろ神様に感謝しました。
立ち上がる若い歳であたった事で感謝しました。新しい仕事をくださったこもにも感謝しました。大変な苦難の中でも感謝する私達に神様は祝福を与えてくださって借金を返してたとえ古い住宅でしたが新しい家を買って平安な生活をするようにしてくださいました。私が恵みと真理教会を通いながら信仰生活を良くできるように道いてくださった首区域長がその住宅の隣りで住みましたが、隣の家が家を売ろうということを紹介してくださってその家を買えました。しかし、入居してまもなくて再建築の話が出て設計から建築の許可まで急に進行されました。すぐ建築を始まると思いましたが施工会社との問題と急に再建築を反対していた一部の住民達の反発で難関に逢着しました。首区域長と私は教会の全ての礼拝と期間を決めて祈りをして神様の助けを求めながら切に祈りました。一方、一軒一軒訪ねまわりながら反対する住民達を説得して新しい建築業者を決めるため走り回りました。事情を知っている教区でも祈り回と集まりがある時ことに問題解決のため祈ってくださり私達に大きい力になってくれました。時間が経って真な神様はこの全ての過程に介入してくださり私達のため良いものを予備してくださったことを知るようになりました。すぐ再建築をしたら物質的に大きい負担になりましたが 2,3 年経ってから分担金をもっと準備して問題なく平安な心で再建築をするようになりました。着工から竣工までの期間中に臨時住宅を捜して引越しすることも大変でしたが神様が良い隣り人に会えるようにしてくださいました。その方は迷いもなく私の家族が何ヶ月間生活するように部屋を貸してくれました。始めは早く再建築ができなくなって悔しくて苦しみましたが神様は一番良い時に良い恵みを与えてくださいました。
患乱が来るときには私も人なのですぐには息をすることができなくて焦る心で不安で涙を流しながら神様に祈りましたが、振り返ってみるとその患乱を通して私の信仰を鍛えた後もっと良いもので満ち溢れるように与えてくださる神様の恵みを深く悟りました。万事が益となるように共に働いてくだる神様の知恵を知るようになり権能を体験して賛美と栄光をささげます。
娘にも母が見せてくださった尊い信仰を私も娘に譲りたいです。母のようにいつも起きて祈り神様だけひたすら愛し行動する完全な信仰の姿で信仰と希望と愛を与える母になることを願います。娘達がこの悪くて厳しい世の中で揺れない堅い信仰を持って神様に大きく用いられるように、また私達の夫婦も日のことに体と物質で主と神様の体である教会のため献身するように祈りながら神様に賛美と全ての栄光を捧げます。
ハレルヤ！

［信仰コラム］　感謝することに成功者になりなさい。

″凡事に感謝し、これはキリストのイエスの中、君たちを向けた神様の意味なり″(デサルロニカ前書5:18)

神様は成功者を 近くにして称賛しながらたくさんのものを与えている反面、失敗者を叱責して退けています。神様が認定させる成功とは誰も決心して行なうことができる成功になります。その中に一つは、感謝することに成功者になります。
一番目、感謝は気持ちを豊かになります。たとえ有するものが少なくでも神に感謝したら豊かな心になります。 気持ちがゆったりと他の人に対する包容力がある人はあの人を世話してくれます。心を豊かにする卓越した方法は積極的に感謝を表すのことです。
二番目、 感謝は人生を楽しみながら暮らすようになります。感謝は暗闇を明らかにする電灯の光として思って感謝の電灯を入れると心が明るくなります。感謝は寒い日ストーブの火のようなので感謝を表すと、心が暖かくなってきて周囲を和やかになります。感謝は芳しい油と同じく、濃い香りを出します。明るくて、和やかで、香りの心の状態を作るものが与えられた人生を楽しみながら生きることです。
三番目、感謝は神様の能力が現れるようになります。聖書に出る偉人たちの共通点はどのような状況にあっても感謝することを忘れなかったことです。大きな危機と困難の中にも神様に感謝しながら救いを体験しました。今日も神様は凡事に感謝する人に様々な救いの恩寵を体験させてくれます。
四番目、 感謝は信頼を向上させます。鍛錬する時、信頼を失って落伍する人がいればむしろ信頼が強まって純粋な人がいます。 鍛錬する間、感謝するか文句するかがそのような違いをもたらすこととします。理解できなくても神様に感謝して、理由がどうであれ、神に感謝したら信頼に驚くべき発展があるようになります。
五番目、 感謝は試験を勝つようにしてくれます。凡事に感謝する聖徒には悪魔が来る暇がないことになります。家と職場と教会の中でどのような事件と問題が起こって亀裂が生じると感謝する心を持ってこれを封鎖しなければなりません。試験に入らないようにしてほしいという祈りとともに凡事に感謝しながら約束して実践しなければなりません。
六番目、 感謝は神様に栄光を上げることです。″神様の栄光のために″という聖書の句は、キリスト人の生活の理由や目標が縮約された表現です。神様に感謝の気持ちを表すことは神様に栄光をあげることになります。
七番目、 感謝は肉体の健康に有益です。凡事に感謝すれば心配から心を守りながら楽しさを得ることができます。感謝すると、心が安定して、疾病に対する抵抗力と治癒する力が高くなります。
八番目、 感謝は対人関係を円滑にしてくれます。人間関係で神様を向けて 感謝しない人は、人間性が失われたのと同じく、動物よりいいことがないです。自分に小さな役でもくれた人に対して心から感謝の気持ちを表すことができる人は人をよく付き合うようになります。
九番目、 感謝は分別力を持つようにしてくれます。イスラエルの民が広野で分別力を喪失して決定的な誤判断をするようになった理由の一つは 感謝が消えたからです。どんな状況でも神様に感謝すると、聖霊が心の目を開けてくださって分別力を持つようにしてくれます。
十番目、 感謝は忍耐心を持つようにしてくれます。悔しいことをされては、 自制力を失って行動しやすいです。こんな時、感謝したら神様が自制力をくれます。つらくて大変なことを耐えたり、つらい修行を積む場合にため息が出て嫌なことが時々あります。でも神様の十字架を思って感謝すれば、耐えられる力と忍耐心をくれます。
「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

誰の罪のためですか?

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

生れつき盲人になった人がエルサレムのどの道端に座って物乞いしていました．イエス様が弟子たちとともにその所を通り過ぎている途中その盲人を見ました．イエス様はそのまま通り過ぎなくてその盲人を注意深く見て身近に近付きました．盲人は多くの人々が彼に近付いて来て彼を取り囲むことを感じました．案外に多い物乞いを得るようになるかも知れないという期待感が生じました．ところでその中に誰か言うことが盲人の気持ちを大変いたむようにしました．“ラビ様，この人が盲人で生まれたのが誰の罪のためですか? この人の罪のためですか? それとも彼の両親ですか?” と質問する言葉が聞こえたからです．物乞いを期待した盲人の耳にこんな言葉が聞こえたから気持ちの良いわけがないです．まもなくラビ様だと呼ばれる方の返事が聞こえました．“この人や彼の両親が罪を犯したことのためではなく彼から神様のなさるみわざを現わそうとするのだ．私たちが昼の間に私を送った方のことをしなければならない．すぐ誰も働くことができない夜が来る．私が世の中にいるうちに私は世の中の光だ.” しました．そしてイエス様が 地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、シロアムの池に行って洗いなさい。盲人はめがしらに泥をそのまま付けて起きて杖をたたいてシロアムの池に行って水で洗いました．すると驚くべき事が起こりました．即時で目が明るくなりました．彼は慌惚な喜びと手ごわい感激を抱いて帰って来ました．このような事件記録には神霊なメッセージがあります．

第一は、いろいろの問題と苦難を神様のなさるみわざを現わす機会にしなさいというメッセージがあります．

ユダヤ人社会ではどんな身障や疾病は罪の結果という考えが普遍化されていました．このような観念が正しいとできないが全然違ったことではないです．自分の犯した罪によって疾病や苦難をもたらすことが確かにあります．ところが聖書には疾病と苦難が皆自分の罪でよることだと言わないです．人生に起きるすべての悲しみと苦痛の最初原因は人類の先祖アダムから始まりました．アダムが罪を犯した以後人間の歴史は 妬み，殺人，戦争，天災地変，疾病などでごっちゃになって来たし，人生と苦難はいつも一緒にして来ました．私たちが分からなければならないことは人が経験しているあらゆる苦難を誰の罪のためだと単純に仕分けとか規定することができないという事実です．その原因が概して複合的な性格を持っているとか，私たちの理解が及ぶことができないのがあるからです．
イエス様が答えるのを “この人や彼の両親が罪を犯したことのためではなく彼から神様のなさるみわざを現わそうとするのだ.” と言いました．イエス様は罪と苦難の関係をあつかわなかったです．これは苦難の中にいる人に対して神様がどんな事を行うかを見せてくれる機会になるようにしなさいというお話です．旧約聖書ヨブ記に登場するヨブは極甚な疾病と苦難を経験するようになりました．ヨブはひどい苦難を経験しながらも神様をうらまなかったです．神様を頼る信仰を捨てなかったです．結局ヨブは讒訴（ざんそ）するサタンを勝って神様に光栄をささげるようになりました．そして神様に対する神霊な知識と体験をもっと深くてふんだんに得るようになりました．ヨブは彼の経験する苦難が神様のなさるみわざを現わす機会になるようにした模範的人物になりました．
私たちが苦難に処した人を助けることも神様のなさるみわざを現わす機会になるようにします．パウロはエルサレム教会を助けるためにマケドニヤ教会が献身的に参詣した事実を紹介しました．**“兄弟たちよ。わたしたちはここで、マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせよう。すなわち、彼らは、患難のために激しい試錬をうけたが、その満ちあふれる喜びは、極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て惜しみなく施す富となったのである。”(コリント人への第二の手紙 8:1,2)**．マケドニヤ教人たちはあらゆる試練と極甚な貧乏の中でもうらむとか気落ちしなかったです．むしろそんな状況を神様がなさるみわざを現わす機会に作りました．イエス様は盲人の目を開くようにすることで神様のなさるみわざを現わしました．聖徒の皆さんはいろいろの問題に直面する時神様のなさるみわざを現わす機会に認識してください．そして神様のなさるみわざを現わすように願いします．

二番目は、すべての人は目が開かれられなければならないしこれのためにイエス様にお会いしなければならないというメッセージがあります．

本文に登場する人は生れつき盲人でした．“生れつき盲人”という言葉は人間の実際を形容する言葉でもあります．霊的にはすべての人が生れつき盲人です．そうするから万物の存在根源と理由と目的に対して完全な理解や知識を持つことができないです．宇宙万物がどのようにして存在するようになったのかを分からないです．偶然と進化の結果という教えることをそのまま信じています．人類の未来に対して楽観しても悲観してもその皆があやふやな予測に根拠したのです．人がどうして住んでどこに行くのかを分からないです．人は食べるために暮して暮すために食べるだけで死ぬことが嫌いで恐ろしいから長く住もうとばたつきます．
しかしイエス様を信じれば暗中模索が終わります．前で言ったすべてのものの答が明かになります．そのすべての答が聖書に啓示されていることが分かるようになります．聖徒の皆さんは神様の恵みを受けて心の目が開かれた人になりました．もう私たちがすべきことは心の目が盲人になった人々を目が開かれて見るようになる神様位に導く事です．神様だけが私たちの心の目を開けてみるようにします．エペソ人への手紙 1 章にこんな祈祷があります．**“どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていだいている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように、と祈っている。”（エペソ人への手紙 1:17～19)**．誰でもイエスキリストを信じれば神様が知恵と啓示の霊をくださって神様が分かるようになります．しかしここに泊まるのではないです．やっと目を開いたことからもっと明らかに見るように心の目が明るくなるのを願いながら祈らなければなりません．心の目が明るくなるほど遠くながめるようになります．そして神霊な世界を見て讃尿するようになります．

三番目は、イエス様の行動と指示に対する盲人の反応と態度を模範としなさいというメッセージがあります．

イエス様が地につばきを吐いて泥をもんで盲人の目に塗ってシロアムの池へ行って洗いなさいとおっしゃいました．つばきと泥にどんな効力があるからそんなになさったのではないです．権能はイエス様から流れ出るのです．イエス様がただお話でその盲人を治すことができるが今度の場合はつばきと泥という手段を使っただけです．これに対して盲人が行なった行動とその結果は非常に手短に説明されています．“これに行って洗って，明るい目で来た.” その記録されました．盲人の態度は非常に驚くべきで立派です．感嘆するべきです．
盲人はイエス様がつばきを吐いて泥をもんで彼の目に塗った時気持ちをいたんだとか反撥しなかったです．盲人はイエス様がおっしゃるお話を注意深く聞きました．その瞬間彼の心にすごい期待感ができました．ある良いことが起こるような信仰が生じました．盲人はシロアムの池へ行って洗いなさいというお話に対して他の意見を提出しなかったです．彼は泥を目に付けたまま杖で手探りしながら黙黙とシロアムの池を尋ねました．シロアムの池に到着した盲人はシロアムの池に入って洗いました．イエス様の弟子たちが盲人の周りに取り囲まれて “ラビ様，この人が盲人で生まれたのが誰の罪のためですか? この人の罪のためですか? それとも彼の両親ですか?” と質問した時，その言葉を聞く盲人の心情は不快で悲痛な心情になったはずです．しかしその所に私たちの主イエス様がいらっしゃったからその盲人にはむしろ幸運の瞬間になりました．災い転じて福になりました．彼がイエス様のお話を聞いて信仰を持ったしそのお話にそのまま直ちに従順したので実に夢のような事が彼に起きたのです．彼は暗さを脱して光の中に入って来ました．肉身的にだけではなく霊的でもそうでした．

聖徒の皆さんは他人やあるいは皆さん自分が当面している問題を神様のなさるみわざを現わす機会になるように願いします．盲人の目を開けてみるようになさったイエス様が知恵と啓示の霊をくださって皆さんの心の目が明るくなるのを祈ってください．そして神様の言葉を傾聴してみ旨を悟って期待と信仰を持ってその命令に黙黙と従順してください．そして皆さんに現われた神様の愛と能力を多くの人々に見えて証言する証人になるように願いします．